

色くなった圃場もありました。霜発生時に発芽していたかの違いでしょうか、同じ圃場でも品種により影響が異なります。北オランダは種球生産が多い地域で、特にカサブランカのリンペン圃場の被害が大きく、24年収穫予定の種球の日本向け販売数は激減すると報告を受けています。

④ 今年の育種傾向

昨年フレッター社が白の八重 OT “モントリオール” のライセンス販売に成功しましたが、今年はワールドブリーディングから八重 OT のナンバー品種（下記いずれも仮名）が多数展示されていました。

「Beijing (赤白)」、「Havana (赤白)」、「Osaka (赤黄)」、「Taipei (白)」、「Capetown (ピンク)」、「Jakarta (ピンク)」、「Lissabon (ピンク)」、「Maputo (ピンク)」、「Ottawa (ピンク)」、「Minsk (黄)」、「Monaco (黄)」、「Nicosia (黄)」、「Oslo (黄)」

オリエンタル八重に比べ、全般に花が大きく、花色も独特のつや感があります。「ブリザード (白八重 OT)」のように花粉が多少出ていますが、アジア市場はあまり気にしないと言われており、むしろリン付が重要な項目になりそうです。



ワールドブリーディングはローズリリーグループに合流しており、共同で八重 OT を開発し、所属生産者によって品種選定や球根生産がされると思われます。

オリエンタル八重は、バンザンテン社のラッキーシリーズに有望な品種が多く、6名の球根生産者がグループを組んで、増産計画に入りました。

ローズリリーの最新品種はコンパクトな枝ぶりが多く、中輪で草丈が伸びすぎず比較的茎が硬い(バランスが取れた)ものが増えた印象。ただ品種数が多い。フレッター社は、シャルドネの改良版のような白(ナンバー品種)や、コンパクトで花の大きさを改善したピンク、ポット用で使えそうな品種など多種多様に。又、デヨンリリー社も後発ながら、八重の品種開発に取り組んでいます。